

膠原病リウマチ内科

1. はじめに

東京女子医科大学病院においては、膠原病リウマチ内科と、整形外科（リウマチ部門）、小児リウマチ科で、「膠原病リウマチ痛風センター」という1つの診療センターを形成している。大学の講座としては、膠原病リウマチ内科と小児リウマチ科が、内科学講座の1つとして、「膠原病リウマチ内科」を形成している。研修は各々独立しているが、連携している。

2. 施設概要

膠原病リウマチ痛風センターは、膠原病、関節リウマチ、痛風をはじめとしたリウマチ性疾患の患者を国内で最も多く診療している施設である。1982年に本学附属医療施設として設立されたが、2018年5月から本院に編入された。膠原病リウマチ内科は、その成人内科部門である。当センターは、リウマチ性疾患全般を対象としており、内科的治療としては最新の薬物療法を網羅し、合併症治療も含めて全人的医療を行っている。必要な症例については、整形外科（リウマチ部門）で手術も行っており、関節リウマチに対する手術件数では全国1位にランクされている。小児リウマチ性疾患や移行期医療にも積極的に取り組んでいる。また、日常の診療や研究、教育について、膠原病リウマチ内科医とリウマチ関節外科医、小児リウマチ医が一体となって取り組んでおり、この点が当医局・センターの全国的にもユニークな特徴である。外来患者数はリウマチ内科だけで約4,000名/月で（初診は100数十名/月）、約3,000名の関節リウマチ患者、多くの膠原病患者、痛風患者の診療にあたっている。また、関節超音波検査のためのエコーは当医局のみで8台所有し、気軽にベッドサイドで使える環境にある。

当医局は全国からリウマチ学を志す医師が集まっており、開放的な雰囲気の中で日々の診療・研究・教育に取り組んでいる。現在の内科医局員（常勤）は教授以下20名である。そのうち、女性医師は10名である。他に、大学院生や、関連病院への出向中、留学中、産休・育休中の医師がおり、非常勤講師や嘱託医師も多い。原則的に、入局者は全員、日本内科学会内科専門医、膠原病・リウマチ内科領域専門医（日本専門医機構専門医）または日本リウマチ学会リウマチ専門医を取得することになる。また、ほとんどの入局者が、学位（医学博士）を取得している。豊富な症例を背景とした臨床・基礎研究も活発に行い、国内屈指の業績を挙げ続けている。国内外の主要学会で毎年多数の発表を行い、英文誌に多くの原著論文を掲載している。希望者には研究留学への道も開かれている。

膠原病リウマチ内科の入院症例は、おもに、膠原病～類縁疾患の精査加療、および、関節リウマチなどが基礎疾患の患者の合併症（感染症など）になる。さらに自科外来から多くの緊急入院を受け入れ、重篤病態・難治性病態も多くみている。他科入院中の患者がリウマチ性疾患であることが判明して転科を受け入れたり、治療困難な患者を他院から転入院で受け入れることもしばしばある。病棟体制は、2班に分かれ、指導医（助教）-後期研修医（1～2名）-初期研修医（1～2名）で1つの班を構成し、チームで診療にあたっている。また、国内有数のエキスパートリウマチ医と、担当症例について直接ディスカッションし、教育・指示を受ける機会が頻繁にある。症例プレゼンテーションを日常的にこなすことによって、プレゼン能力も磨かれる。後期研修医の研修は病棟での研修が主体となるが、本人の希望に応じて、当科の初診外来や外来超音波検査の見学につき、指導を受けることも可能である。なお、本人の入局前の経験にもよるが、一般的には、2～3年間の病棟研修後（関連医療施設を含む）、本院で専門外来を担当する。所定の年数を経過後、助教または医員として採用される。

月1回、内科症例検討会を行っており、主治医が指導医とともに準備して、発表する。後期

研修医は、そのような症例を基にして、少なくとも年1回、指導医のていねいな指導の下に、いずれかの外部の研究会で症例報告をする。さらに、翌年4月下旬の日本リウマチ学会総会でも、演題を発表する。症例報告のほか、本人の意欲や経験に応じて、多数症例での臨床研究を行い、報告することもある（国際学会で発表することもある）。

また、当科独自の教育プログラムとして、「関節診察・関節エコー習得プログラム」と「ダーモスコピー・キャピラロスコーピーによる爪郭部毛細血管の評価法習得プログラム」がある。「関節診察・関節エコー習得プログラム」は、動画視聴やオリジナル教材による学習と上級医からの直接指導による技術習得により、リウマチ性疾患の診療に必要な関節診察・関節エコー技術を体系的に習得し、さらに関節エコーを活かした診療ができるようになることを目標としている。プログラム終了時には日本リウマチ学会登録ソノグラファー申請が可能である。「ダーモスコピー・キャピラロスコーピーによる爪郭部毛細血管の評価法習得プログラム」は、動画視聴と当科の豊富かつ多彩な症例に対する上級医との評価、撮像によりダーモスコピー・キャピラロスコーピーの使用法と評価方法を習得し、診療で活用できるようになることを目標としている。

3. プログラムの名称

東京女子医科大学膠原病リウマチ内科 後期臨床研修プログラム

4. プログラムの目的

リウマチ専門医としての高い職業意識、倫理観と社会性を持ち、全人的かつ国際水準の科学的な根拠に基づく診療を安全に実践するための基礎的・臨床的知識、診療技能、臨床経験を有する医師の育成を目指す。さらに、かかる医師像を維持するためのリサーチマインドの涵養と、生涯学習能力、後進および医療スタッフの教育能力の獲得を目指す。

5. 指導スタッフ

東京女子医科大学医学部 内科学講座 膠原病リウマチ内科学分野

教授・基幹分野長 針谷正祥

臨床教授 川口鎮司

准教授 田中榮一、宮前多佳子

講師 勝又康弘、岡本祐子、樋口智昭

6. 研修施設

基幹施設：

東京女子医科大学病院 膠原病リウマチ内科

研修協力施設：東京女子医科大学附属足立医療センター、東京女子医科大学八千代医療センター、都立大塚病院、川崎市立井田病院、川崎市立川崎病院、さいたま市立病院、自治医科大学附属さいたま医療センター、JCHO東京山手メディカルセンター、など。

7. 研修カリキュラム・指導体制・研修修了後の進路・学位

膠原病リウマチ内科後期臨床研修プログラムを参照のこと。

8. 問い合わせ先

162-8666

東京都新宿区河田町8-1

東京女子医科大学 膠原病リウマチ内科

医局長 樋口智昭 (E-mail: higuchi.tomoaki@twmu.ac.jp)

TEL 03-3353-8111
FAX 03-5269-1726

以下も参照のこと。
東京女子医科大学膠原病リウマチ内科のホームページ
(<https://twmu-rheum-ior.jp>)